

平成30年度岡山県認知症対策連携会議 議事要旨

開催日時 平成31年1月16日(水) 18:00～19:30
開催場所 ピュアリティまきび「白鳥」
出席者 佐藤委員、清水委員、役重委員、武田委員、堀井委員、中島委員、
中塚委員、藪野委員、坂本委員代理、磯田委員、井原委員代理、尾崎委員、
阿部委員、砂田委員、山形委員代理、石原委員、森脇委員、徳山委員

- 1 開 会
- 2 あいさつ(柴田福祉政策企画監)
- 3 議 題(進行 中島会長)
 - (1) 岡山県の認知症施策について
(説明:長寿社会課)

【委員の意見等】

委 員: 県と岡山市との連携が気になっている。この会議の委員に岡山市の方が入っていないが、連携は取れているのか。例えば、認知症高齢者の見守り・行方不明対策は県全体で考えるべきものであり、資料の数値も岡山市も含めた県全体の数値を入れた方が分かりやすい。認知症対策で、特に連携が必要なところは、連携を密にとって協力し合うことが必要と思うが、どうなっているのか。

事務局: 広域ネットワークへの検索依頼件数の14件は、岡山市も含めた全市町村の件数だ。岡山市も含め県内で行方不明の高齢者が出ると、まずは市町村内で検索するが、見つからない場合、他の市町村と情報共有することになる。岡山市とも連携は取れている。

委 員: 岡山市は保健センターを中心として、行方不明者が出た場合に、警察や病院と連携して検索するシステムがある。県も岡山市のシステムと連携したほうが良いし、参考にして対策を考えてはどうか。

事務局: 岡山市のシステムについて研究したい。

委 員: 岡山市との連携は大切なことだ。この会議にも岡山市の方にオブザーバーとして出席していただいたほうが、事業の運営などにおいてスムーズに思う。岡山市の方にも出席していただくことを考えてほしい。

委 員: 認知症カフェの普及啓発には厚生労働省も力を入れており、認知症の人と家族の会岡山県支部も認知症カフェマップを2年前から作り始めた。平成29年度末で、県内にカフェが122カ所あるが、それぞれのカフェの運営の状況がまちまちであるため、カフェの代表者に集ってもらい、カフェのあるべき姿を示す研修会を実施してほしい。認知症介護研究・研修仙台センターの矢吹氏が

研修会をしたと聞いている。岡山県でもマップの作成を契機として、カフェの指針を示して、研修会を実施してほしい。

事務局：ご意見は承った。精度の高いマップができると聞いており、そのマップを見て意見交換をさせてほしい。研修の実施については前向きに検討したい。

委員：認知症の人と家族の会岡山県支部もバックアップをする。県内に認知症カフェに前向きな方もいるので、そういった方と連携して、研修を実施してほしい。

委員：若年性認知症の方と家族は孤立しがちであり、集いの場があることは素晴らしいことだ。集いの参加者数を教えてほしい。

認知症高齢者の見守りネットワークは各市町村にできており、大切な取組だ。資料の市町村別認知症施策の取組状況の中に、見守りネットワークが入っていないので、入れてほしい。市町村によって取組がまちまちであるため、県が好事例を示したり、取組の最低限の水準を示すなどしてほしい。

事務局：若年性認知症の人と家族の集いには、毎回、当事者と家族の方が3組から5組、参加している。また、当事者と家族以外に、サポート役として、認知症の人と家族の会岡山県支部の会員、市町村の担当者などの参加があり、総数では15人から20人が集まっている。最近の集いには、病院から紹介を受けて初めて参加する方もおり、参加者数が増えてきている。

委員：若年性認知症支援センターを運営している片山内科クリニックは倉敷市にあるが、岡山市の当事者も参加しているのか。

事務局：集いを年間で6回実施しているが、昨年度から2回は岡山市の協力で、岡山市民病院で実施している。岡山市では、岡山ひだまりの里病院の協力をいただき、岡山ひだまりの里病院の関係者や、岡山市だったら参加できるという方が参加している。2会場にしたことで、どちらかの会場だけ参加する方、両方とも参加する方がいる状況だ。

委員：集いは認知症の人と家族の会岡山県支部が県から委託を受けて実施しているが、充実してきている。家族は切羽詰まって参加しており、専門職の方からの応援を受けて、参加して良かった、ためになったと帰られている。素晴らしい会になっていると感じている。

委員：認知症対策は今、急速に進みつつあるところであり、全体には行き渡っていないので、どんどん変えていかないといけない状況にある。若年性認知症の人と家族の集いも倉敷市で4回、岡山市で2回実施しているが、人口からすると回数が逆な感じがする。少しずつ改善していくことを期待している。

(2) 平成31年度当初予算要求額と主な事業について (説明：長寿社会課)

【委員の意見等】

委員：若年性認知症支援コーディネーターは、就労支援について、国で配置している両立支援コーディネーターと、どのように関わり、連携を図るのか。

事務局：両立支援コーディネーターは主に癌や肝炎の方をサポートしているのが現状だ。若年性認知症の方への支援が必要となった場合には、若年性認知症支援コーディネーターと両立支援コーディネーターが相談して対応し、実際に企業を訪問する際も一緒に行くなど、連携をとりながら対応することになる。

委員：両立支援コーディネーターは産業医と主治医とを繋ぐが、若年性認知症支援コーディネーターも同じ役割を果たすのか。

事務局：若年性認知症支援コーディネーターは、企業の人事担当者と、認知症の方の配置換えや退職するタイミングをどうするかなどを相談している。役割は両立支援コーディネーターとかなり近いものがある。若年性認知症支援コーディネーターはまだ産業医と連携が取れていないので、両立支援コーディネーターに産業医との橋渡しをお願いしたいと考えている。また、若年性認知症支援コーディネーターと両立支援コーディネーターが、どのように連携して支援を進めるかを相談し、一緒に支援を進めていきたいと考えている。

会長：産業医は若年性認知症のことを理解していないと役割を果たせない。県は産業医の研修の項目に若年性認知症のことを入れるよう求めたほうがよい。

事務局：労働局や産業振興センターに、来年度の産業医の研修の項目に入れてもらうよう要望している。

委員：本人ミーティングは、当事者が集まって主体的に語る会で、家族支援・啓発になるとあるが、イメージが掴みにくい。具体的にどのようなものなのか、教えてほしい。

事務局：本人ミーティングは、認知症の本人同士が、自分がやりたいことや、あったら良いと思うものをお互いに語り合い、その思いを実現できるように行政が施策を進めるという取組であり、国が推進している。岡山県でも認知症の方の集いはあるが、本人だけでなく家族も一緒に来て、本人に代わって家族が話すということもあるので、本人だけに集まって話をしていただき、どう思っているかを語る場をつくりたい。本人の了解が得られれば、市町村の担当者にも本人ミーティングの様子を見てもらい、認知症の方もご自身で、要望・要求が言え、支援をする対象だけではないことを、理解してもらおうという形につなげたい。本人ミーティングがうまく軌道にのれば、仙台市などで実施しているオレンジドアのように、本人が本人をサポートするピアサポートに繋がる。ピアサポートを岡山県でも行いたいという当事者がおり、笠岡市で試験的に実施している。本人同士が話し合うことで、思いや意見を引き出せるような事業にしたい。

委員：想定外のことがあるかもしれないが、思いのほか効果があるかもしれない。

委員：堂々と人前で話ができる認知症の方は、日本では丹野氏しかいないと思っていたところに、岡山県でも、認知症の方から人前で話をしたい、その場を作ってほしいという要望が出てきた。その方を中心に、認知症の方が話をできる場を作りたい。どのような形になるか分からないが、頑張りたい。

(3) 各団体の取組等について

(説明：出席者が各団体の取組を説明)

【委員の意見等】

委員：VRシステムによる普及啓発事業についてだが、かなりの予算をとって取り組んでいる。各団体の研修会で、VRの体験ができると研修の効果があがる。簡単な手続きで研修として利用できるのか。

事務局：手続きは申込書をFAXでもメールでも構わないので、長寿社会課に送るだけである。こちらから連絡を取り、日程を調整する。

委員：薬剤師認知症対応力向上研修は、岡山市内の薬剤師の方も受けられるのか。

事務局：岡山市内の方も受講できる。

委員：高齢運転者の認知機能検査について、診断書提出命令が出た場合に、受診費用などに援助はあるのか。MRI検査やPET検査は高額になる。どのような検査を行うかも診断する医師に任せるのか。

委員：保険適用はあるが、自己負担額への援助はない。

委員：制度が始まる前の議論でも受診費用について問題となっていた。国も診断する医師の判断に任せているのではないかと思う。

(4) その他

なし。